

2017年11月6日

### 朝礼の話 (2017年11月)

皆さんお早うございます。先月は二度の大型台風の到来もあり例年になく雨の多い天候が続きました。気候不順で農作物の育ち具合にも影響がでているとのこと。先週末から穏やかな天気となり、ようやく晩秋らしい季節が感じられるようになりました。明日（7日）は二十四節気では立冬となります。市内の街路樹も色づきを増してきました。今年も早あと二ヶ月を残すのみとなりました。公私ともに遣り残したことがないか今一度点検し、一つずつ片付けていくように心がけましょう。

米連邦準備理事会（FRB）は今月1日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で金融政策の現状維持を決め、追加利上げを見送りました。「緩やかな利上げのもとで、経済の改善が続く」との見通しを示し、来月の会合での追加利上げを示唆しました。先週2日、トランプ米大統領は、FRBの次期議長にパウエル理事を指名しました。来年2月に任期が来るイエレン議長が退任し、パウエル理事が議長に昇格することになりました。パウエル氏は低金利派と目されイエレン議長の穏健路線を継承し、量的緩和の縮小、利上げで大規模緩和からの金融正常化を慎重に進めていくと見られています。トランプ氏は成長重視から低金利政策を好み、現FRB理事の中で唯一共和党主流派に近く、「利上げには忍耐強さが必要」と慎重姿勢を常に見せてきたパウエル氏を議長に指名しました。FRBは議長、副議長を含む7人の理事で構成され、理事の任期は14年、理事から選ばれる議長、副議長の任期は4年となっています。正副議長、理事は大統領が指名し、上院の承認を得て任命されます。イエレン氏は民主党のオバマ政権より指名を受け、2014年2月に議長に就任しました。2008年の金融危機対策として導入された大規模量的緩和策を出口に導きました。1期4年の退任は異例となります。トランプ氏はイエレン氏の手腕については評価していましたが、オバマ民主党政権で指名を受けた議長の再任を好まなかったことと共和党の反対があったこともあり、議長交代を優先したと見られています。一方、日銀は先月31日の金融政策会合で、大規模緩和の維持を決めました。黒田総裁は記者会見で、物価目標（2%）を達成する前の緩和縮小について、「出口は物価安定目標が実現される状況で議論するもの」と否定しました。世界の主要国が金融正常化にかじを切る中で、日銀の緩和継続姿勢が一段と際立って来ました。黒田総裁は来年4月に任期満了となります。先の衆院選での与党勝利を受けて、異次元緩和を原動力とする安倍政権のアベノミクスが信任されたこととなりました。安倍首相の黒田氏への評価も高いこともあり、同氏の再任説が有力となって来ました。日米の中央銀行トップの人事については、選考の仕方、背景など違いはありますが、いずれも政権の意向に沿った人事がなされることに違いはありません。世界の主要国が金融正常化の方向に向かいつつある中で、日銀は何時、どのように出口戦略をスタートさせるのか日本経済にとり中長期の重要課題の一つといえます。その観点からも来年の日銀総裁人事は大きな注目点となります。

以上